

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日：2022年8月21日

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部公共経営学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文： カリフォルニア大学バークレー校 現地言語： 英語
留学期間	2022年5月～2022年8月
留学した時の学年	3年生（渡航した時の学年）
留学先での学年	3年生（留学先大学で在籍した学年）
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年8月20日
明治大学卒業予定年	2024年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期：8月中旬～12月中旬 2学期：1月中旬～5月下旬 3学期： 4学期： (記入例/1学期：4月上旬～7月下旬, 2学期：9月中旬～2月上旬)
学生数	45,057
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (USドル)	円	備考
授業料	6383.36	873835円	
宿舍費	4980	681764円	
食費		20000円	
図書費		3500円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	83.88	11362円	simカード（ハナセル） 使用
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		300000円	
被服費		円	
医療費	200+11000 (円)	27380+11000円	渡航前PCR検査代（左が日本帰国時、右がアメリカ入国時）
保険費		30660円	形態：大学指定の明大サポート保険
渡航旅費		155170円	
ビザ申請費	350	47915円	SEVIS代
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	約 15000	2124206円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地：東京（成田） 目的地：サンフランシスコ 経由地：ソウル（仁川） 復路 出発地：サンフランシスコ 目的地：東京（成田） 経由地：ソウル（仁川）
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社：アシアナ航空 料金：155170 ②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社： 料金： 復路 航空会社： 料金： ∴合計：
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店（店名： ） <input checked="" type="checkbox"/> インターネット（サイト名：アシアナ航空） <input checked="" type="checkbox"/> その他（まずは Expedia などと比較して公式サイトで購入）
滞在形態関連
1) 種類（留学中の滞在先）（例：アパート、大学の宿舎など）
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮（寮の名前：International House） <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋（同居人数 1）
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン（ <input type="checkbox"/> 自炊可 <input checked="" type="checkbox"/> 自炊不可）
4) 住居を探した方法：
留学報告書を参考にしました。
5) 感想：（滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス）
International House（以下、I House）は様々な国の学生が住んでおり、また毎週イベントがあるので交流する機会も多く、友人はできやすいです。また、食事はバイキング形式で毎日メニューが変わるので充実しています。他にもキャンパス付近に寮はありますが、他の寮生からも I House が一番いいと言っていました。
現地情報
1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。（例：現地の病院、学内の診療所）
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（治療を受けた場所： ）
2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。（例：留学先大学の相談窓口、現地の友人等）
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（問題の内容や相談した人等： ）
3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？
外務省のたびレジに登録し、情報収集していました。夜はできるだけ外出せずに、出かける場合は 1 人で出歩かないようにしていました。
4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。（例：寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。）
キャンパス、寮共に Wi-Fi の使用が可能で困ることはありませんでした。それ以外では日本でハナセルという sim カードを購入してインターネットを利用していました。
5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？（例：現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。）
基本的にはクレジットカードで支払いをしていました。渡航前に日本円で 10 万円をドルに両替して持っていました。
6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。
薬、使い慣れている日用品（シャンプーなど）、中には緑茶やインスタント味噌汁を持ってきている人もいました（アメリカでも買えますが、2、3 倍の値段になります）。
7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。（例：渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。）
渡航前（履修登録後 1 週間以内（2 月中旬））にクレジットカードで支払いました。

学習・研究活動についてのレポート（履修した科目ごとに記入してください）

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他 () ・履修の制限はありましたか？ 最低 10 単位の履修登録	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名（留学先大学言語）:	履修した授業科目名（日本語）:
Sociology of the Family	家族の社会学
科目設置学部・研究科	Sociology
履修期間	Session A(5/23~7/1)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）
授業時間数	1 週間に 120 分が 4 回
担当教授	Charles Richard Sarno
授業内容	このコースでは、19 世紀の農場での仕事、医療、娯楽から、21 世紀の小さく、多様で、主観的に定義された家族まで、アメリカの家族の歴史をたどっていきます。また、移民、社会階層格差の拡大、特に市場の支配の拡大など、多くのトレンドに対して、家族が「ショックアブソーバー」として機能する方法も探る。最後に、社会階級、エスニシティ、性的指向に関連した家族の形態の多様性についても探求する。
試験・課題など	中間試験、期末試験 毎授業後のリアクションペーパー、中間レポート（4~5 ページ）、期末レポート（7~9 ページ）
感想を自由記入	講義形式の授業で多くは教授の話を書く形だったが、毎時間授業後の小課題のためにグループディスカッションもありました。リーディング課題もかなり多く、6 週間の講義にしては 2 回の試験と 2 回のレポート課題は多すぎると現地生も言っていました。ただ、アメリカの多様性を反映した家族の形に触れることができるので学ぶことはとても多かったです。

履修した授業科目名（留学先大学言語）:	履修した授業科目名（日本語）:
Business English for Multilingual Students	多言語学生のためのビジネス英語
科目設置学部・研究科	College Writing Programs
履修期間	Session D(7/5~8/12)
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）
授業時間数	1 週間に 150 分が 2 回
担当教授	Kyle D Ridley
授業内容	このコースでは、英語でビジネスを行うためのコミュニケーションスキルを向上させる機会を提供します。交渉、ビジネスレター、メモ、履歴書の書き方、ビジネス語彙の増強、ビジネスソーシャルスキルの向上、ケーススタディの読解とディスカッション、インターネットビジネスの探求などが含まれます。コースにはフィールドワークが含まれる。
試験・課題など	毎授業のリーディング課題、フィールドワーク（+プレゼンテーション）、ジョイントインタビューの動画（8~10 分）課題
感想を自由記入	週に 2 回と少ないが、その分課題の量はかなり多く、その課題量から履修取り消しをした学生もいました。様々な文化のビジネスのアプローチの仕方を学べるので、時々教授の偏見も入っていますが、国際的なキャリアを考えている人にはまずは他者を「知る」という点でとても勉強になります。ディスカッションが多く、学生同士の交流機会がとても多いので、この講義が終わった後が一番名残惜しかったです。

履修した授業科目名（留学先大学言語）：	履修した授業科目名（日本語）：
Global Peace and Conflict("Humans Rights and Film")	国際的な平和と対立（人権と映画）
科目設置学部・研究科	Interdisciplinary Social Science Programs
履修期間	Session E(7/25~8/12)
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）
授業形態	講義形式（チュートリアル、講義形式等）
授業時間数	1週間に210分が4回
担当教授	Noam Schimmel
授業内容	このコースでは、映画を媒体として、グローバルな文脈における人権を、歴史的・現代的な観点から探求していきます。このコースは、3つの大きなテーマ性を持っています。 1. 人権侵害の生存者の個人的な証言とその侵害の記述 2. 人権擁護者のプロフィール、その価値観、行動、業績 3. 人権の歴史、侵害、成果、法的保護、社会的充足。 国際人権法と人権の道徳的基盤、女性の権利と少女の権利、先住民の権利、貧困と開発、ジェノサイド、人種差別とその人権への脅威と侵害など、学習するトピックはこれらに限定されません。
試験・課題など	毎授業のリーディング課題、ビデオ視聴、ディスカッション欄への投稿、最終レポート課題（8~10ページ）
感想を自由記入	3週間での短期集中講義だったので授業時間はもちろん、課題量も多く、授業前課題に関しては全て行ったうえで授業に臨むことはできませんでした。多くは教授の話聞き、人権に関する映画を観て、自由にディスカッションするという形式でした。人権に関しては定まった考えが無いので、教授や学生がそれぞれ違う意見を交わすので毎回新たな発見がありました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください（下記2以降は記入不要）
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他：
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
マイナビ、リクナビ
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。（内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません） ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
国際協力、外資系、観光業
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 （例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。） ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学中でもサマーインターンシップへのエントリーは可能であり、一緒に留学をした多くの3年生は合間の時間で就職活動に力を注いでいましたし、留学を選択するからといって、大きなハンデになることはありません。 アメリカにたった3ヶ月ですが、生活することで日本の良さも再認識する機会となり反対にアメリカでの長期の海外生活は容易なものではないということもわかったので、当初は国際的キャリアを考えていましたが、一度考え直そうと変化が生じそうです。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス（準備、試験対策等）をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	入学年より経営学部グローバル経営人材育成トラック GREAT に在籍
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	出願・選考
留学開始年	1月～3月	留学先の履修登録
	4月～7月	航空券購入、ビザ申請・取得、滞在先の確保
	8月～9月	
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	留学先の中間試験
	8月～9月	留学先の期末試験
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

この留学先を選んだのは私が将来の進路として国際協力関係の仕事に就きたいと考えており、世界の中心であるアメリカ、そしてサマーセッションでは特定の分野を専攻するわけではないため、そこで様々な事柄に触れることで視野を広げたく、またその中に身を置くことで国際的なキャリアが向いているかどうか自分を試してみたいという思いもあり、カリフォルニア大学バークレー校への留学を決意しました。また、大学のレベルに対しての語学能力スコアのハードルが比較的安く設定（バークレー校以外にもロサンゼルス、アーバイン校なども）されているため挑戦しやすいということもありました。

個人的には留学はもちろん、海外に行くのも初めてということもあり、最初の2,3週間はホームシックになり日本へ帰りたい気持ちが強く、帰国日まであと何日かをカレンダーで数えていたほどでした。しかし、最初の1か月が過ぎると少しずつ滞在先での生活にも慣れてきて、その後は帰国日まであっという間でした。もちろん、勉強は母国語ではない英語ということもあり、日本の大学と比べて課題量は膨大で日々忙殺されていましたが、自由な時間も十分にあったので観光をするなどとても充実した時間を過ごすこともできました。

留学の目的は上記のように国際的キャリアを考えるためとありますが、生活することでそれ以前に日本を出ての生活は向いていないと感じてしまうことも多々あり、良く言えば日本の良さを認識することができましたが、現在では他の選択肢を考えることも視野に入れています。このことに関して悲観的になっているわけでも、国際的キャリアを完全に諦めることになったわけでもありませんが、日本を出ることで初めて割ることができる自身の殻もあるのだと感じました。なので、留学先で自分を客観的に見ること、慣れない環境に身を置くことでコンフォートゾーンを抜け出し、また留学先でのびのびと振る舞って自身の良い点も悪い点も含んだ自身の新たな一面を発見できるのも留学の一つのメリットであり、醍醐味であると思いました。